

2015年度(平成27年度)

事業報告書
(第5事業年度)

自 2015年1月1日
至 2015年12月31日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	2
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定等に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
II. 組織運営の概況	4
1. 会議等の開催状況	
2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
III. 事業概要	6
公 1: 企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及	
1-1. 提言・提案活動	8
1-2. 調査研究事業	8
1-3. 認定・顕彰事業	11
1-4. 情報発信	13
1) ウェブサイト運営	
2) 広報活動	
3) 出版、ライブラリー	
1-5. 普及促進	16
1) 国際会議、メセナフォーラム等	
2) メセナネットワーク	
3) 地域メセナ交流・推進	
4) 国際交流	
1-6. コーディネート、協力	23
公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業	
2-1. 「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」.....	27
2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」...	28
2-3. 助成認定制度	29

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定等に関する事項

当該事業年度において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告、または命令はなかった。

5. 会員の状況

正会員:139 社・団体 準会員:33 社・団体／25名 (2015年12月4日現在)

6. 役員等

2015年12月4日現在

名誉会長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
顧問	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
会長	高嶋達佳	株式会社電通 会長
副会長	秋山耿太郎	株式会社朝日新聞社 顧問
理事長	尾崎元規	花王株式会社 顧問
専務理事	加藤種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
理事	一橋 忠	株式会社資生堂 企業文化部 150年史編纂プロジェクト編集長
	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
	河島伸子	同志社大学経済学部 教授
	布垣直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 歴史文化室長 トヨタ博物館 館長
	福川伸次	一般財団法人地球産業文化研究所 顧問
	舟橋香樹	大日本印刷株式会社 ICC本部 本部長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	南 直哉	東京電力株式会社 元社長
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事
監事	岩田武司	弁護士
	太下義之	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター主席研究員
名誉理事	池田弘一	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長
	古賀信行	野村ホールディングス株式会社 取締役会長
	斎藤勝利	第一生命保険株式会社 代表取締役会長
	佐々木 元	日本電気株式会社 名誉顧問
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長
	中村 克	日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員
	平田保雄	株式会社日本経済新聞社 取締役会長
福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 最高顧問	
評議員	足立直樹	凸版印刷株式会社 代表取締役会長
	上田卓司	株式会社フジタ 代表取締役社長執行役員
	竹安 聡	パナソニック株式会社 役員 ブランドコミュニケーション本部 本部長
	田中稔三	キヤノン株式会社 代表取締役副社長 CFO
	戸田裕一	株式会社博報堂 代表取締役社長
	前田晃伸	株式会社みずほフィナンシャルグループ 名誉顧問
	矢崎和彦	株式会社フェリシモ 代表取締役社長

2. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

【◎:部会長／グループリーダー、○:サブリーダー *2015/12/30 現在】

【調査研究部会】（4回:1/20、3/10、5/28、11/19）

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査・分析し、メセナを担う実務担当者に情報を提供するとともに広く社会に紹介。メセナに関する研究の提案、方向性を検討する。

◎吉村真也(TOA)、○金井 圭(損害保険ジャパン日本興亜)、
山本真由美(トヨタ自動車、～5/28)・藤原朋子(トヨタ自動車、5/28～)、
阿部奈菜子(サントリーホールディングス)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)、山口大輔(パナソニック)

【認定・顕彰部会】（5回:5/28、6/24、7/13、7/21、12/3）

メセナに取り組む企業・企業財団等を励まし、社会からの関心を高めることを目的として、百社百様のメセナを認定する「This is MECENAT」について議論し、顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。

◎森実尚子(日本電気)、原田卓也(アサヒビール)、飯田直子(大日本印刷)、岡 秀男(中外製薬)、
長野哲郎(電通)、西澤信二(東京急行電鉄)、半田誠一(資生堂)

【情報発信部会】（2回:1/19、7/27）

協議会の情報発信の方向性や役割について議論し、具体的な手法について検討する。WEB を中心に多彩なメディアの活用やプレス対応、出版物企画などについても提案する。

原田聖子(グリーン)、高瀬祐生子(資生堂)、川北 英(竹中工務店)、舟橋香樹(大日本印刷)、
宮本 尚(大日本印刷)、小栗和子(ホテルオークラ東京)、中村可奈子(三菱地所)

【会員ネットワークワーキンググループ】（4回:6/4、7/24、7/30、9/4）

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。各事業に関連づけた会合を開き、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎宗村 泉(凸版印刷)、○菅沼比呂志(リクルートホールディングス)、前田学(朝日新聞社)、
岡部三知代(竹中工務店)、内倉真紀子(白寿生科学研究所)、安西正史(パナソ)、
星 久人(ベネッセホールディングス)

【交流部会】

文化振興プラットフォームの実現に向けて、内外の文化機関やアート NPO、行政等とどのような交流・連携をはかるべきかを検討し、交流事業(助成、コーディネート等)の方向性を提案する。

市村作知雄(アートネットワーク・ジャパン)、片山正夫(セゾン文化財団)、
石綿祐子(東京都歴史文化財団)、高萩 宏(東京芸術劇場)、杉村亥一郎(凸版印刷)、
山本真由美(トヨタ自動車)、大野マリ(日本オラクル)、川廷昌弘(博報堂)

III. 事業概要

芸術文化による社会創造＝すべての人がクリエイティブな社会に ～文化資本による創造経済の推進～

日本の企業メセナが世界に誇れる内容・規模であることは、これまでの調査においても明らかであり、これをさらに推し進めることが協議会の役割である。折しも 2015 年度は設立 25 周年の節目にあたり、「Corporate MECENAT Year of Japan 2014-15」として導入した寄付金制度やコンサルティング機能が本格的に成果をあらわし始めた一年だった。あわせて、各事業における国際化をはかったことで、日本の企業メセナを海外に発信し、国内外の文化機関等とのネットワーク形成が大きく進んだ。また 2020 年を一つの契機と捉えて、企業ならびに国・地方自治体において芸術文化振興の気運が高まる中、メセナ専門機関として期待が寄せられており、各方面からの相談が著しく増加している。協議会は「Creative Archipelago (創造列島)」の理念を掲げ、メセナプログラムの企画や文化による地域振興の提案等を積極的に展開しており、コーディネート事業の拡充に結び付いている。

2015 年末には、これら事業の成果を踏まえ、内外の環境を鑑みながら、2016 年から 2020 年に続く「中期経営計画」を策定したところである。

■ 民間版アーツカウンシルとして、2020 年に向けた施策を具現化

- 協議会は「民から民へ」の資金の流れをつくり、文化振興に関する政策提言を行う民間版アーツカウンシルであり、その機能を強化すべく、前年度に設立した助成制度「2021 芸術・文化による社会創造ファンド(2021Arts Fund)」を積極的に推進。実質運用の初年度となった 2015 年で、約 3 億 2,600 万円の寄付金を芸術・文化活動に助成することができた。
- 2020 年に向けて、「Creative Archipelago (創造列島)」を提唱。全国各地のメセナ活動を認定する「This is MECENAT」ならびに「2021 Arts Fund」と結びつけ、文化による社会創造を推進する提案であり、多彩な文化プログラムの促進とマッチング機能の強化をはかっている。
- 協議会にこれまで蓄積されてきた情報とネットワークを活かし、各地の企業や自治体、文化機関、メディア等から寄せられる相談に応じ、具体的な施策の提案、コンサルティング等を行っており、調査やコーディネートを事業受託している。

■ 国際的なネットワークを形成、日本企業のメセナを発信

- 2014 年より継続して、「文化資本による創造経済」をテーマとする国際会議を実施。この会議を機として、引き続き、東南アジア各国において文化振興に関する議論を展開することとなった。また近年、各国のメセナ組織や文化機関等とのネットワークが形成されており、関係者が訪日の際にはメセナフォーラム等を行うほか、会員各社のメセナ活動を紹介している。
- 調査研究事業ではメセナの国際比較を行うべく、現地視察を含む海外のメセナ調査に着手。またメセナの事例研究を深めるべく前年度に導入した「メセナ・アソシエイト」が、第一期の成果を発表しており、日本企業のメセナの価値を多角的に掘り下げた。
- WEB の英語サイトをリニューアルし、英語によるプレスリリースや Facebook による配信で、日本の企業メセナの動向を発信するほか、海外の文化機関等とオンラインでミーティングを行うなど、恒常的な情報交換、交流の機会が増えている。

これらの事業は、会員各社をはじめ全国の企業が取り組むメセナの膨大な実績の上で成り立っている。各方面より協議会に寄せられる期待は、すなわち民間の芸術文化振興および芸術・文化による社会創造の成果に対する評価といえよう。協議会では、さらに幅広い企業メセナの取り組みを推進し、さまざまな領域で活動する文化の担い手との連携を深められるよう、各事業を充実させていく必要がある。2015年度は、文化振興プラットフォームの役割を担うべく内外のネットワークを形成し、中期的な視点から事業の実践に取り組み始めたところである。

【2015年度事業等実施状況】

月	主な事業・活動	理事会・部会等
1月		情報発信①
	メセナフォーラム・賀詞交歓会(1/21)	調査研究①
2月	プレス①	理事会(2/5)
	調査フランス視察(2/10-16) プレス② 助成審査(2/24)	
3月	25周年国際会議@大阪(3/7-8)	
	調査報告会(3/10) TIM募集(3/2-5/15)	総会・理事会(3/10)
4月	アワード募集(-5/31)	
	ミニ・メセナフォーラム(4/21)	
5月		運営企画委(5/9)
	GBFund選考(5/18)	調査研究② 認定顕彰①
6月	新入会員ファーストミーティング(6/4)	会員NW①
	調査アンケート(6/18-8/31) 調査フォーラム(6/25)	助成審査(6/16) プレス③
7月		認定顕彰②
	プレス④ TIM審査(7/17) 英プレス①	情報発信② 運営企画委(7/28)
8月	メセナ美術部(7/30)	認定顕彰②③ NW②③
	英プレス②	
9月	瀬戸内検討会(8/5) 調査アソシエイト委嘱(8/25)	アワード選考(8/20)
	メセナ美術部(9/4) GBFund検証会発足(9/17) ミニ・メセナフォーラム(9/17)	アワード選考(9/8) 助成・2021審査(9/10)
10月		NW④
	GBFundフォーラム(10/17) メセナフォーラム(10/19) 瀬戸内アートクルーズ(10/22-23)	プレス⑤ 記者発表会(10/15) 英WEBリニューアル(10/30)
11月		理事会・運営企画委(10/29) 運営企画委員会(11/10)
	メセナフォーラム(11/11) アワード贈呈式(11/21)	GBF選考(11/17) 調査研究③
12月	調査ドイツ視察(11/24-12/2)	助成・2021審査(12/4) 認定顕彰⑤
	英プレス③	理事会(12/4)

公1:企業による芸術・文化支援および芸術・文化振興による社会創造の促進と普及

1-1. 提言・提案活動

■「Creative Archipelago(創造列島)」を提唱

- 前年度に発表したメッセージ、「〈ニュー・コンパクト〉の継承発展 文化による社会創造、2020年に向けた取り組み」を推進すべく、「Creative Archipelago(創造列島)」の理念を打ち出し、さまざまな機会を捉えて議論を展開。2020年に向け、全国各地の文化振興をはかり、企業メセナの推進を目指す趣旨である。
- 重点項目として、①地域創造、創造都市による文化振興の列島展開、②世界との多方向文化交流 Cultural Diversity 社会の実現、③創造経済の提唱の3つを挙げ、それに対応する戦略目標として、①全国すべての地域で文化プログラムを展開、②100の国際芸術祭の開催・3,000の地域国際芸術祭の展開・100の海外フェスティバルへの参加、③マルチステークホルダープロセスによる経済スタンダードの実現・コンパクト経済の飛躍的拡大、を掲げている。
- 理事会・運営企画委員会など協議会内での議論はもとより、メセナフォーラム等で趣旨を発表するほか、外部の会合や研究会等に招かれる機会を活かし、「Creative Archipelago(創造列島)」について説明を行っている。

■文化振興プラットフォーム、KMK ASEAN 発足に向けた議論を推進

- 25周年事業として行った国際会議の機を捉え、「文化振興プラットフォーム」形成のための議論を推進。企業はじめ文化振興に携わる関係者が集い、セクターを超えたネットワーク形成と協働プロジェクトの必要性について意見を交わした。
- あわせて国際会議の参加ゲストからの提案を受け、「KMK(Kigyo Mecenat Kyogikai)ASEAN」の発足に向けて東南アジア各都市および東京での会議の継続を提案。国際交流基金アジアセンターへの申請・採択を得て企画を進めている。

1-2. 調査研究事業

■日本の企業メセナについて規模と質の両面から迫る調査・研究

- 2015年度の調査研究事業では、①国内外の企業メセナの実態調査、②メセナ事例の研究・分析、③外部機関からの調査受託という3つの柱で業務を推進した。特に、2014年度より導入した「メセナ・アソシエイト」による研究レポートが発表され、現地視察を含む海外の企業メセナの調査に着手できたことは大きな成果である。また外部機関より、企業メセナをはじめ芸術文化振興に関わる案件の調査依頼があり、コーディネート・コンサルティングにおいても、これまで協議会が蓄積してきた調査データを活用する機会が増えた。
- 国内の「メセナ活動実態調査」では、アンケート調査を中心として幅広くデータを収集。認定・顕彰事業や助成事業で得ている情報をはじめ、他の文化団体やアートフェスティバルへの協賛等、公開されているデータに基づき、より精度の高い調査手法の開発に取り組んだ。
- アンケートの実施にあたっては、過去の回答状況を整理し、近年コンタクトを取れていなかったメセナ実施企業などに電話ヒアリングを実施。これにより企業397社、財団206団体より回答を得ることができた(前年度:企業333社、財団189団体)。

- 調査研究部会では、数値的な規模感のみならず、日本の企業メセナの大きな特徴である「活動の多様性」に着目。経営資源を活かしたメセナの取り組み、さまざまな社会課題に応答するプログラムが増えつつあるなど、メセナの多様な広がりについて議論を深めた。
- 2014年度メセナ活動実態調査の報告書として『Mecenat Report 2014』を発行。企業・企業財団のメセナ活動費総額が956億円超と日本の文化予算に迫る勢いであり、なによりも各社の創意工夫による活動の多様性が、世界に誇り得る日本の企業メセナの特徴である点を強調した。あわせて調査報告会を実施。部会メンバーが出演し、調査分析による最新のメセナ動向の紹介と、6つのトピックス別の活動事例紹介と意見交換を行った。

2014年度「メセナ活動実態調査」を読み解く！

- 実施日：2015年3月10日(木) 15:00～16:30
- 会場：ベルサール八重洲 Room E(東京都中央区)
- 出演：吉村真也(TOA)、山本真由美(トヨタ自動車)、阿部奈菜子(サントリーホールディングス)、金井圭(損害保険ジャパン日本興亜)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)
- 参加者：約70名(会員企業・個人会員、メディア等)

企業+財団

総件数 **3,000**件以上
 総額 **956億2,697**万円※
※アンケート調査によるデータのほか、企業財団の公開資料および協議会事業によって得られたデータ等を加えた額。

企業

活動総件数 **2,928**件
 活動費総額 **194億142**万円

財団

活動総件数 **693**件
 年間支出総額 **645億9,540**万円



■メセナ・アソシエイトによる事例研究

- 外部の若手研究者からなる「メセナ・アソシエイト」は、各自の専門性を活かしつつ、企業メセナの質的な面を掘り下げており、第一期の4名は、「メセナ活動の質」や「経営効果」といった視点から事例研究を進めた。取材先からも好評いただき、自社媒体にレポートを転載するというケースもあった。報告会を6月25日に行うとともに、レポートをWEBに掲出している。
- 2015年においても第二期アソシエイトを公募、応募者数約20名の中から3名のアソシエイトを選出し(うち1名は前年度より継続)、引き続き、専門性の高い方々に参画いただけている。自らの関心に沿うテーマを設定するとともに、調査研究部会やライブラリーミーティングで意見交換を行い、企業メセナ担当者の声を聞きつつ研究を深めた。

第一期メセナ・アソシエイト

澤谷夏樹 『『アートの質』は玄関に響く——ロビーコンサート四態』

取材企業：公益財団法人福岡文化財団(福岡県)、朝日酒造株式会社(新潟県)、株式会社ホテルオークラ東京(東京都)、アサヒビール株式会社(東京都)

宮本典子 「美術体験を広げ、深めるさまざまなメセナ活動」

取材企業：DIC 川村記念美術館(千葉県)、損保ジャパン日本興亜美術館(東京都)、大日本印刷株式会社(東京都)、帆風美術館(東京都)、大塚国際美術館(徳島県)

宮本祐輔 「企業メセナ活動における『企業としての経営効果』についての考察」

取材企業:小田原鈴廣(神奈川県)、株式会社電通(東京都)、キャノン株式会社(東京)

西畠 綾 「米国の民間企業による経済危機以降の芸術文化支援の動向」

調査対象: 全米芸術基金、アメリカ芸術支援協会 等

第二期メセナ・アソシエイト

澤谷夏樹(音楽評論家)、鈴木紗綾子(EU・ジャパンフェスト日本委員会)、

高島知佐子(静岡文化芸術大学文化政策学部 准教授)

■海外の企業メセナについてデータ収集と現地視察により把握

- 民間の文化支援に関する国際比較を行うべく、2015 年度より各国のメセナ状況の調査に着手。これまで国際会議などで培ってきたネットワークを活かし、コンタクトのある各国機関のアンニュアルレポート等の収集を始めた。韓国、台湾、シンガポール、オーストラリア、アメリカ、カナダ、アイルランド、イギリス、オーストリア、オランダ、フランス、南アフリカのメセナ組織が発行する調査資料を収集するとともに、各組織に質問状を送り、最新の動向について尋ねている。
- 2月11日～14日にフランスのパリとナントを訪れ、メセナ組織 ADMICAL では、3月に大阪で行う国際会議に向けた意見交換を行った。あわせて、エルメス財団やルイ・ヴィトン財団など現地企業を訪問するほか、ナント市では休眠施設を活用したアートセンター、リュ・ユニックを視察。現在のフランスの文化支援の動向やメセナに関する理念、具体的な活動内容について知見を得るとともに各機関とのコミュニケーションをはかることができた。
- 11月24日～12月2日は、ドイツのフランクフルトとベルリンを訪問し、ドイツ銀行やメセナ組織クルトゥールクライスなど企業メセナの現場を訪れるとともに、ベルリン市文化部長等、行政機関関係者を訪問し、民間と行政の文化施策の実態について情報を得ることができた。
- なお本調査研究事業は、文化庁の「平成 27 年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に採択された(事業受託:10,021,000 円)。

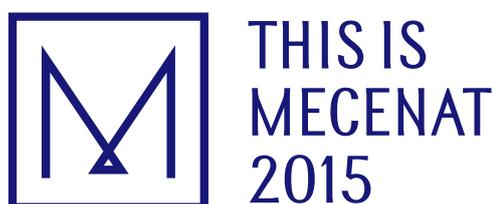
■調査研究の蓄積を活かし、芸術文化振興に関する幅広い調査を受託

- 2015 年度は、会員はじめ外部機関等から、目的を設定した調査データの提供依頼や調査委託が多くあり、これまで蓄積してきた調査データを活用する機会が増えた。また新聞やウェブニュースなどでも調査結果が引用され、知見の活用を行うことができた。
- 広島県からは「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」を受託。瀬戸内 7 県(兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛)のアート資産に関する広範な悉皆調査を受託し実施している。本調査事業と連動して、フィールド視察「瀬戸内アートクルーズ」を行ったほか、地元の企業との接点ができるなどの効果も得られている。
- 東京都からは、オリンピックに関連してロンドンで行われる国際会議に提出する『世界都市文化ファイナンスレポート』の作成にあたり、東京都内における民間の文化支出のデータを求められ、既存の情報に加えて最新の公開データを調査。約 635 億円超の数値を算出した。
- 会員からは、企業メセナの国際比較や、1990 年代から現在までの傾向、特定分野における支援の動向などについて問い合わせがあり、これまでの調査実績を踏まえて対応している。

1-3. 認定・顕彰事業

■メセナ認定「This is MECENAT」、M マークの活用進む

- 多様なメセナの姿を幅広く顕在化させる認定制度「This is MECENAT」(以下「TIM」)は、2015 年が2年目の実施となり、これを初めて顕彰事業「メセナアワード」と連動させ、順調に運営できた。
- TIM2015は、3月2日から5月15日までの募集期間に、2015年度中に行う予定のメセナ活動を募り、6月の審査会で122件(69社・団体)の活動を認定。前年度と比べ、45件が新規の活動登録となり、新たに22社・団体より応募があった。新たなメセナ実施企業への登録の呼びかけが、これらの結果に結びついた。
- 認定通知後には多くの喜びの声が寄せられ、メセナ認定を受けたことが地元メディアで取り上げられるなどの成果があった。また「当社のメセナを考えるうえで大変勉強になる」「担当が変わってもデータを引き継ぎ、他のメンバーと共有できることも便利」といったTIMの制度運営に対するポジティブな意見も得られた。
- 認定活動に「メセナマーク」(通称Mマーク)を付与、WEBやチラシ、記録集等の印刷物に載せるほか、催事会場でのパネル掲出なども見られた。特に継続認定している活動ではMマークの見せ方にそれぞれ工夫を凝らしており、認定マークの露出により、当制度の認知度および価値が高まっている。
- アーカイブサイトは協議会の本サイトのコンテンツ「アート&カルチャー」や「メセナライターレポート」と連携するほか、SNSなども連動させ、相乗的な情報発信をはかっている。今後はアーカイブサイトの英訳を進め、バイリンガルでの情報を配信し、蓄積していく。



■TIM2014と連動して運営、「メセナアワード 2015」では推薦案件が受賞

- 「メセナアワード 2015」では、「This is MECENAT2014」で認定された活動109件を対象としており、5月末までの受付期間に38件のエントリーがあった。対象案件については約3ヶ月間にわたり事務局が調査・取材を行い、認定・顕彰部会による2度の検討会議を経て選考会にあげた。
- 部会による検討会議では他薦の仕組みを取り入れ、自らエントリーしていない活動でも優れている認定活動を推奨、これにより合計50件が選考会で検討された。部会から推薦されることに喜びを示すメセナ担当者が多く、モチベーションの向上につながっていることが明らかとなった。
- 8月下旬と9月上旬に一次・二次選考会を実施し、メセナ大賞1件、優秀賞5件、特別賞として文化庁長官賞(文化庁後援)1件を選出、優秀賞には評価ポイントを賞名に反映させるべく、選考委員が考案した。TIM2014を認定した審査委員が活動の成果を踏まえてメセナアワード2015の選考にあたるという連動が、スムーズに行なわれた。
- TIM2014より審査委員長を設け、メセナアワード2015の選考会も同様の構成で進めた。これによりメセナに関する議論が一層活発となり、選考会がさらに充実した。
- 自社独自の技術など経営資源を活かし、地場産業や歴史資産に光を当てる活動、国内外のネッ

トワークにより充実した展開をしている活動が受賞。美術鑑賞教育や音楽による復興支援、参加型の写真展、子どもと地場産業をつなげる取り組み、希少な伝統文化など多彩な内容で、活動エリアも熊本、香川、大阪、京都、静岡、東京と各地にわたった。

- 10月15日にプレスリリースを発行し、記者発表会を実施。主要メディアをはじめ地方紙や業界紙、専門誌など24名の記者が参加した。受賞各社のメセナ担当者も出席し、直接取材することで、受賞者のコメントを交えた記事掲載につながった。
- 贈呈式および記念レセプションを11月20日、スパイラルホール(港区・青山)にて開催。大日本印刷代表取締役社長の北島義俊氏をはじめ各社・団体のトップが登壇し、受賞の喜びをスピーチした。文化庁次長、選考委員が出席したほか、協議会会員や文化関係者など約280名が集い、プレス関係者20名超の参加を得て盛況な式典となった。
- 贈呈式の開催にあわせ、受賞活動の詳細を紹介するリーフレットを制作、メセナ大賞受賞のトップインタビュー、選考委員のコメント、応募活動一覧をまとめた。WEBとも連動させ、贈呈式の後は受賞各社代表のスピーチや選考評などをレポートとして掲載した。
- 贈呈式の開催ならびにトロフィー制作にあたっては、ワコール/ワコールアートセンターの協力を得ており、本年より3年間、悠(はるか)氏にトロフィー制作を依頼した。記念レセプションでは、アサヒビール、麒麟ホールディングス、サントリーホールディングスよりドリンクをご恵贈いただいた。

【メセナ アワード 2015 受賞活動および受賞企業・団体】

メセナ大賞		大日本印刷株式会社 ルーヴル-DNP ミュージアムラボを起点とした美術鑑賞ワークショップ
優秀賞	志マッチング賞	サントリーホールディングス株式会社/公益財団法人サントリー芸術財団 ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金
	夢ものづくり賞	しずおか信用金庫 地域資源循環型もの、人、夢づくり活動
	瞳かがやく賞	島の子供たちに贈る瀬戸内デリバリーコンサート実行委員会 島の子供たちに贈る瀬戸内デリバリーコンサート
	写真伝想賞	富士フイルム株式会社 “PHOTO IS”想いをつなぐ。30,000人の写真展
	音でつなぐ世界賞	ローム株式会社/公益財団法人ロームミュージックファンデーション 京都・国際音楽学生フェスティバル 2014
特別賞: 文化庁長官賞		株式会社古今伝授の間香梅 古今伝授の間の維持管理および一般公開



メセナアワード 2015 贈呈式



大賞・優秀賞オリジナルトロフィー(撮影:佐藤茂)

【This is MECENAT 2015／メセナアワード 2015 審査委員】

原島 博	(東京大学名誉教授) *審査委員長
赤池 学	(ユニバーサルデザイン総合研究所所長)
伊東信宏	(音楽学者、大阪大学大学院文学研究科教授)
金沢百枝	(美術史家、東海大学教授)
河島伸子	(同志社大学教授、文化経済学会<日本>会長)
中村陽一	(立教大学 21 世紀社会デザイン研究科教授) *以上五十音順、敬称略
尾崎元規	(企業メセナ協議会理事長)

1-4. 情報発信

1) ウェブサイト運営

■会員のメセナ活動の発信に注力、英語サイト公開、メセナライターによるレポートを開始

- 2015 年は、情報発信を強化した前年度に引き続き、ウェブサイトにおいて会員のメセナ活動を発信することに注力した。トップページの「アート&カルチャー」を毎週更新すべく会員に情報提供を呼びかけ、12 月末までに 332 件・49 社の活動を掲載し、前年度掲載数(154 件、48 社・団体)を大きく上回った。
- 新たな取り組みとして「メセナライター」制度を導入、公募により 8 名のライターを委嘱し、2015 年度下半期から活動を始めた。東京だけでなく、福岡、名古屋、新潟在住のライターもおり、会員や This is MECENAT 認定活動、協議会の催事などの現場を訪れ、担当者へのインタビューを行い、レポートを WEB に掲載。第三者の目から見た臨場感あるレポートとして、取材先からも好評を得ており、活動発信にふくらみを持たせることができている。
- メセナライターによるレポートは、大日本印刷「artscape」への再掲や、トヨタ自動車「ネット TAM」にバナー掲載するなど、両サイトのご協力を得て情報発信の横展開ができ、読者層を広げることができている。
- 国際発信を強化すべく、WEB の英語サイトをリニューアル、ビジュアルのインパクトある構成として 10 月に公開した。協議会の事業を紹介するだけでなく、日本の企業メセナの事例をトピックスごとにまとめて紹介、最新のコンテンツを掲載している。国際発信および交流の基盤となるサイトとして整備できた。
- WEB サイト、SNS の拡充は着実に効果を発揮しており、閲覧状況も順調である。Facebook をほぼ毎日の頻度で更新し、メルマガを毎週月曜日に配信している。Facebook ページの「いいね！」は現在、1,828 件。メルマガは会員だけでなく、寄付者や一般の方々を含め約 2,200 件に配信しており、毎号、会員の活動を取り上げて WEB サイトとひもづけている。こうした持続的な発信により、会員や外部からの反応が増えており、協議会の存在感が向上している手ごたえがある。

	セッション数	ユーザー数	ページビュー
2015 年	115,765	89,174	321,017
2014 年	78,323	55,326	324,544
2013 年	29,441	23,737	57,718

※セッション数:サイトの訪問回数、ユーザー数:サイトの訪問者数、ページビュー:サイト内ページ閲覧数

【メセナライターレポート掲出数:12件】

公開	タイトル	活動/企業	ライター
7月	アートの旅の魔法	アサヒビール株式会社特別協賛「アサヒ・アート・フェスティバル 2015」開幕に寄せて	原 亜由美
8月	新たな風が大きな力に。 再発見されるメセナ活動。	ミニ・メセナフォーラム「2014年度メセナ・アソシエイト事例研究報告会」レポート	大野はな恵
9月	あなたの街に、オーケストラがやってくる。	ヤマトホールディングス株式会社 音楽宅急便「クロネコファミリーコンサート」 30周年記念コンサート	山下昭子
11月	海風が届ける音との「出逢い」	認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク 子どもを連れてクラシック「音楽と絵本」『くものすおやぶんとりものちょう』	大野はな恵
11月	「清める」文化に日本人の暮らしと心を見つめる	花王ミュージアム訪問記	矢口晴美
11月	縁を結んで紡ぐ旋律 —「ものづくり」と「おとづくり」—	公益財団法人新日鉄住金文化財団 紀尾井ホール開館20周年記念バロック・オペラ ペルゴレージ 歌劇「オリンピーアデ」	大野はな恵
12月	銀座から才能を見守り、育てていく	株式会社リクルートホールディングス 第13回グラフィック「1_WALL」展 公開最終審査会	向坊衣代
12月	アートも経営もシンプルが一番	GMO インターネット株式会社 熊谷コレクション〜オフィスとアートの新しい関係〜 ジュリアン・オピエの世界	山下昭子
12月	観客との一体感を生む手づくりのコンサート	株式会社原田 坂田早苗クリスマスコンサート	矢口晴美
12月	四半世紀のメセナの「功德」	メセナアワード 2015 贈呈式	山下昭子
12月	災害のあとに 〜アートや文化ができること〜	ミニ・メセナフォーラム「災害とアート〜防災の観点から災害復興におけるアートの可能性を探る」	向坊衣代
12月	音は、垣根を超えてどこまでも。 音楽が繋ぐコミュニティの輪。	トヨタ自動車株式会社 トヨタコミュニティコンサート NPO とうかいマスターズオーケストラ	福島尚子

【スタッフによるブログ・「メセナの読み物」掲出数:9件】

1月	第5回メセナフォーラム「社会創造におけるアートNPOの役割とは」レポート(根本)
3月	フランスでの国際調査研究(坂本)
4月	2014年度メセナ活動実態調査報告書『Mecenat Report 2014』[発行:調査研究事業](末澤)
5月	ミニ・メセナフォーラム「フランス・ナント市の創造都市とアート拠点「リュ・ユニック」の活動」(根津)
5月	吉本光宏氏レクチャー「オリンピックと文化プログラムについて」レポート(坂本)
6月	企業メセナ協議会 設立25周年記念 国際会議 -東京セッション・大阪会議- 報告 [交流事業] (松木・松永)
8月	2015年度メセナライターのご紹介
10月	帆風美術館友の会誌に掲載! メセナ・アソシエイト事例研究レポート「美術体験を広げ、深めるさまざまなメセナ活動」宮本典子(松永)
11月	開催報告!メセナフォーラム in 東北 「GBFund フォーラム〜東日本大震災 芸術・文化による復興の行方〜」(松永・松木)

2) 広報活動

■日常的なメディア・コンタクトで、メセナの本質に迫る記事掲載を実現

- 「企業のメセナ活動」の記事が昨年度に引き続き一層増えており、企業メセナが文化の枠組みにとどまらず、社会的影響を及ぼす活動として多面的に紹介され、評価されていることが伺える。
- 2015年は協議会設立25周年の節目であり、大阪での国際会議など各事業の情報発信のタイミングを捉えながら、記者との密なコミュニケーションをはかった。日常的なメディア・コンタクトに努

めたことで、メディアの掲載数が増加するだけでなく、日本経済新聞の文化欄、朝日新聞の社説および文化欄など、全国紙でメセナの本質に迫る記事が掲載された。

- 「メセナアワード 2015」では受賞活動決定のプレスリリースを発行すると同時に、記者発表会を実施(10/15)。受賞各社のメセナ担当者が出席し、記者からの質問に直接答える機会を設けたことで、後の取材と記事掲載に結びついた。
- 各事業の成果としてプレスリリースを 5 本配信し、英語によるプレスリリースも 3 本配信した。各国のメセナ組織はじめ内外の文化機関に配信することで、恒常的に協議会の活動を伝え、日本の企業メセナの動向を伝えている。それにより、フランスのメセナ組織 ADMICAL ウェブサイトの国際欄に掲載されるなど、相互のコミュニケーション形成につながっている。

【プレスリリースによる情報発信】

No.	配信日	リリースタイトル
1	2/9	企業メセナ協議会設立 25 周年「—文化は資本だ—創造経済と社会創造」文化と経済を両輪とする社会の実現に向けた大阪国際会議を開催
2	2/23	メセナ認定「This is MECENAT2015」3 月 2 日よりスタート
3	6/29	社員が地域とつくる企業文化、122 の事例—メセナ認定「This is MECENAT2015」審査結果発表—
4	7/7	東日本大震災 復興のカギは「芸術・文化」—「GBFund」 第 12 回助成活動を決定—
5	7/14	[国際発信] Key to the restoration is ‘Art and Culture’
6	8/7	[国際発信] Selection results This is MECENAT 2015
7	10/15	メセナアワード 2015 受賞活動決定 企業の経営資源をいかし、人と人をつなぐ活動が受賞—被災地や香川県・小豆島ほか全国各地で、国際的な連携も—
8	12/15	[国際発信] “The Japan Mecenat Awards 2015” Award Winners Announced Awards:

【主な取材対応】

掲載日	媒体	内容
10/31	日経新聞	「東京五輪 文化も祭典」
11/1	朝日新聞	「はじめてのメセナ 文化支援 不況もなんの四半世紀」
11/3	朝日新聞	「文化の日 多様な支え方考えよう」

【メディア掲出数】

	メセナ・文化政策	企業	協議会	アワード	TI M	調査研究	助成	その他	合計
2015 年	45	88	26	79	9	0	1	0	248 件
2014 年	45	54	34	81	5	2	5	1	227 件
2013 年	36	—	12	70	—	0	29	3	150 件

3) 出版、ライブラリー

■25 周年記念出版の企画を進行

- 2014 年より着手している 25 周年記念出版については、『Creative Archipelago(創造列島)』として、メセナの先駆けとも言える数々の事例を掘り下げ、経済と文化のかかわり、コミュニティの基盤となる文化の役割について追究する内容で構成。出版社も決定しており(水曜社)、2016 年度内の発行を目指して執筆を進めている。

■メセナ情報の提供とライブラリー運営

- 協議会事務所内のライブラリーでは、企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30(要電話予約)
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> 和書・報告書: 1,457 冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) CSR 報告書: 約 250 冊 洋書: 562 冊(14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連) 企業・企業財団の資料: 約 1,060 企業・団体分 新聞・雑誌掲載記事(1989 年 12 月～2014 年 12 月) 定期刊行物: 行政、芸術団体、研究機関、NPO、他
閉架資料	<ul style="list-style-type: none"> 映像・音声資料: 265 点(主催セミナー(1998-2001 年)、メセナアワード贈呈式(~2008 年) 他)
年間利用者数	12 名(大学、企業、文化団体等)

1-5. 普及促進

1) 国際会議、メセナフォーラム等

■Coraporate of MECENAT Year 2014-15、国際会議を大阪で開催

- 協議会 25 周年記念事業の国際会議を、東京セッション(2014/10/23)に引き続き、大阪で開催。3月7～8日の2日間にわたり、企業経営者、アーティスト、中間支援組織、経済学者などが集い、「文化は資本だ——創造経済と社会創造」と題して議論を交わした。文化を基盤とする「創造経済」の考えが明確に示され、社会創造を推進するうえで文化への集中投資が必要であることが確認されるとともに、参加者相互に国際的なネットワークの強化がはかられた。
- 初日は 3 つのセッションで構成。フランス、マレーシア、日本における民間の芸術文化振興の動向や事例について情報交換したうえで、メセナの実践の場である「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ」を視察。さらに本国際会議のテーマの中心となる「創造経済」の考え方について、内外の経済学者による考察があり、議論の基盤となる意見の提唱があった。
- 2 日目は午前中にセッション α として、「文化振興プラットフォーム形成」をテーマに、企業メセナ担当者および文化関係者を中心とした意見交換の場を設けた。海外ゲストも交えたディスカッションの場となり、「創造列島 Creative Archipelago」が初めて提案された。
- 同日午後は、アーティストの蔡國強氏、大林組会長の大林剛郎氏による特別講演から始まり、続くプレゼン・カフェでは5名のゲストのプレゼンテーションに基づき、参加者とともにグループディスカッションの形式で議論を深めた。全員参加で双方向性ある意見交換の場となり、参加者ならびにゲストからも好評を得た。
- 最終のパネルディスカッションは、東京セッションから続く「文化と経済」の関わりを議論の核としながら、文化が地域経済や福祉、災害復興など社会の課題を創造的に解決する力となり得ることを確認。芸術・文化の創造性が社会の幅広い分野に変化を起こすため、「投資」を行うことが社会創造に大きなインパクトを与えると結論づけられた。さらに今後も、東南アジア各都市を含め、「KMK ASEAN」の実現に向けたミーティングを重ねていくことが提案された。
- 会議の実施にあたっては、関西・大阪 21 世紀協会より運営協力を得、時期を同じくして始まった「Parasophia:京都国際芸術祭」を視察するなど、関西の文化機関・関係者との連携・交流もはから

れた。なお本会議を含む 25 周年記念事業については、以下の会員企業ならびに公的機関からの支援を得ている。

- [特別協力] 文化庁、(大阪会議)千島土地株式会社 [助成] 国際交流基金
[協力] (東京セッション)アジアン・カルチュラル・カウンシル
(大阪会議)公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会、
国際交流基金クアラルンプール日本文化センター
[寄付・協賛] 朝日新聞社、アサヒビール、花王、サントリーホールディングス、資生堂、
損害保険ジャパン日本興亜、大日本印刷、電通、トヨタ自動車、日本電気、
ベネッセホールディングス

【大阪会議「文化は資本だー創造経済と社会創造」】

日時:2015年3月7日(土)13:00~19:30 ※20:00~21:00 レセプション

会場:クリエイティブセンター大阪

(大阪府大阪市住之江区北加賀屋 4-1-55 名村造船所大阪工場跡地)

13:10~14:40

◎セッション1「世界の企業メセナの現状」

日本の企業メセナの動向を紹介するとともに、フランス ADMICAL からは、社会的領域に関心が移行し個人や起業家が参加している状況が報告された。またマレーシアより、政府が文化支援に大きな役割を担っている中、ペトロナス社による充実したメセナ事例が紹介され、東南アジア諸国と連携する「KMK ASEAN」発足への期待が示された。

• 出演者:

- ロール・ショデ(アドミカル・インスティテュート代表、アドミカル法務・国際関係部門マネージャー)、
 - イザン・サトリナ・モハメド・サレフディン(MyPAA ディレクター)、
 - ロスリ・アブドゥル・ラヒム(ギャラリー・ペトロナス運営責任者)
- 加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)

15:00~16:30

◎セッション2「アートの価値、文化の価値」

「北加賀屋クリエイティブ・ビレッジ」ツアーとして、会場であるクリエイティブセンター大阪はじめ、大型美術作品を収蔵しながら展示する MASK(メガ・アート・ストレージ北加賀屋)、空き地を活用した「北加賀屋みんなのうえん」を訪問。アーティストやクリエイターらが創造拠点として活用することでエリア一帯を創造活動の集積地に変える取り組みを視察した。

• 案内:

- 北村智子(千島土地株式会社 地域創生・社会貢献事業部)



16:50~18:20

◎セッション3「創造経済」

創造経済の対象は「変化」であり、新たなものを生み出し、生活や思考に変化を与える点で、芸術・文化への投資は企業の研究・開発と同様であると指摘。経済成長の源泉として文化を捉えるべきであり、さまざまな分野をインターリンクする文化には、常に新たな投資が必要であると議論が結ばれた。

• 出演者:

- ジェイソン・ポッツ(ロイヤルメルボルン工科大学教授)
- 河島伸子(同志社大学教授、文化経済学会<日本>会長)

• モデレーター:加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)

• 参加者:63名

日時:2015年3月8日(日)11:00~19:30 ※19:30~20:30 クロージング・パーティー
会場:大阪ビジネスパーク 松下IMP (大阪府大阪市中央区城見1-3-7)

11:00~12:30

セッションα「文化振興プラットフォーム形成」
企業メセナ担当者および文化関係者を中心とした意見交換

14:00~14:05

◎開会挨拶 高嶋達佳(公益社団法人企業メセナ協議会会長)
◎来賓祝辞 有松育子(文化庁次長)

14:10~14:55

◎特別講演1「文化による社会の創造」 蔡國強(アーティスト)

15:00~15:45

◎特別講演2「経済と文化、経営と文化」 大林剛郎(株式会社大林組 代表取締役会長)

15:45~16:15

◎プレゼン・カフェ: プレゼンテーション
「北加賀屋アートビレッジ構想」 北村智子(千島土地株式会社)
「アーツサポート関西」 佐々木洋三(関西・大阪 21 世紀協会)
「Parasophia:京都国際現代芸術祭 2015」 尾崎宣之(同組織委員会事務局長)
「マレーシアのアーツ状況」イザン・サトリナ・モハメド・サレフディン(MyPPA ディレクター)
「国際的なアートプロジェクトの進め方」キャロライナ・ロア(テアトロ・ア・ミル財団 国際化部門主任)

16:45~17:35

◎プレゼン・カフェ: ディスカッション
プレゼンテーションへの質疑応答とディスカッションを、参加者全員でグループ形式により実施

18:00~19:20

◎パネルディスカッション「創造経済と社会創造」
文化と経済の関係にパラダイムシフトが起きているとの指摘から始まり、芸術・文化の経済的な価値にとどまらず、その創造性が社会の幅広い分野に変化を起こすことが「創造経済」の方向性であるとの指摘があった。さらに今後は、芸術・文化への「支援」ではなく「投資」を行うことが社会創造に大きなインパクトを与えると締めくくられた。

- ・出演者
蔡國強(アーティスト)
芝川能一(千島土地株式会社 代表取締役社長)
ジェイソン・ポッツ(ロイヤルメルボルン工科大学教授)
ロール・ショデ(アドミカル・インスティテュート代表、アドミカル法務・国際関係部門マネージャー)
尾崎元規(企業メセナ協議会理事長、花王株式会社顧問)
- ・モデレーター
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事、企業メセナ協議会理事)

参加者:117名



■多彩なメセナフォーラム、ミニ・メセナフォーラム、フィールド視察等を開催

- 協議会事業に基づくメセナフォーラムやコーディネート事業と絡めたフィールド視察など、効率的かつ効果的な企画運営を実現できた。フォーラムや視察を行うことで事業にフィードバックできたり、会員拡大につながるなど、相乗的な成果も得られた。
- メセナやアートの現場を訪ねる「フィールド視察」を、広島県より受託している「瀬戸内アート資産調査・整理等事業」に絡めて実施。高速艇をチャーターし、瀬戸内海の島々やアート拠点を巡るクルーズを実現し、従来にはない視点からのフィールド視察になるとともに、コーディネート事業においても得るところの多い企画となった。
- 事務所ライブラリーを会場に、協議会を訪れる内外の文化関係者と、参加者が少人数で語り合うミニ・メセナフォーラムを実施。本年はクリエイティブ・シティとして知られるフランス・ナント市から、休眠施設をアートセンターとして活用している「リュ・ユニック」のディレクター、パトリック・ギゲール氏を迎えたほか、他の事業と連携したテーマでも開催し、成果のアウトプットにつなげた。

【メセナフォーラム】

社会創造におけるアート NPO の役割とは	
<p>アートと社会のつなぎ手であるアート NPO を迎え、コミュニティ再生や震災復興、貧困などの社会課題に向き合いつつ活動を展開することの意義と課題、アートの可能性等について意見を交わした。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時:2015年1月21日(水)14:30～16:00 • 会場:株式会社竹中工務店 • ゲスト:上田假奈代(NPO 法人こえとことばとこころの部屋代表) 佐藤範一(NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク代表) • モデレーター:太下義之(三菱 UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター 主席研究員/センター長) • 参加者:78名(会員50名、一般14名、招待14名) 	
GBFund フォーラム～東日本大震災 芸術・文化による復興の行方～	
<p>GBFund で支援している「三陸国際芸術祭」において、2011年からの4年間の活動内容と成果を振り返りながら、現場でこれから必要とされていることは何かを議論。フォーラム終了後には、「大船渡復興東北三大まつり～東北と世界を結ぶ祭博～」の視察も行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 実施日:2015年10月17日(土)14:00～16:00 • 会場:No.3 Gallery(岩手県大船渡市盛町字町6-23) • 出演者: 古水 力(大船渡市郷土芸能協会副会長) 甘竹勝郎(一般社団法人三陸国際交流協会理事長) 前川十之朗(みんなのしるし合同会社代表社員) 佐東範一(NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク代表) 加藤種男(企業メセナ協議会専務理事) • 参加者:15名 	
「Creative Archipelago キックオフ・ミーティング～2020年に向けた企業の取り組み～」	
<p>2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、日本全国で文化プログラムを展開・応援しようと協議会が掲げた「Creative Archipelago(創造列島)」のキックオフ・ミーティング。今後の企業メセナの取り組みについて提案するほか、各地で実施・計画されている文化プログラムのプレゼンテーションを行い、未来につながる文化プログラムのあり方を企業と文化関係者がともに考える場とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日時:2015年10月19日(月)14:30～17:00 • 会場:FUKURACIA 浜松町6F 会議室A • プレゼンター:アーツカウンシル東京、Art Mix Japan、アンスティチュ・フランセ、 さいたまトリエンナーレ、三陸国際芸術祭、東京・春・音楽祭、広島県、文化庁 • 進行:太下義之(三菱 UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター 主席研究員/センター長) • 参加者:79名 	

「オランダ×日本 | 文化政策意見交換会」

ユニークな文化政策で「世界一アーティストが住みやすい国」と称されるオランダと、2020 年に向けて行政・民間ともに多彩な文化振興策を展開すべく動き始めた日本。アムステルダム市の文化担当者やオランダ在住のアーティスト、企業メセナ協議会理事らが集い、各国・各都市の文化政策の取り組みや方針について意見交換を行った。

- 日時:2015 年 11 月 11 日(木) 16:00~17:30
- 会場:FUKURACIA 品川クリスタルスクエア 3F 会議室 I
- 出席者:
カイサ・オロングレン(アムステルダム 副市長)、
アクセル・リュガー(ゴッホ美術館 館長)、
カリン・ファン・ギルスト(アムステルダム市立美術館ゼネラルマネージャー)、
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事)
- 参加者:54 名

【ミニ・メセナフォーラム】

フランス・ナント市の創造都市とアート拠点「リュ・ユニック」の活動

- 日時:2015 年 4 月 20 日(月)13:30~15:00
- 講師:パトリック・ギゲール(リュ・ユニック ディレクター)
- 参加者:13 名

「2014 年度メセナ・アソシエイト 事例研究報告会」—最新メセナレポート—

- 日時:2015 年 6 月 25 日(木)16:00~18:00
- 出演者: 澤谷夏樹(音楽評論家)、宮本典子(アートマネジメント・コンサルティング office N 代表)、
宮本祐輔(三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング)
- 参加者:14 名

災害とアート～防災の観点から災害復興におけるアートの可能性を探る

- 日時:2015 年 9 月 17 日(木) 16:00~17:00 ※17:00~懇親会
- ゲスト:大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所 社会研究部芸術文化プロジェクト室准主任研究員)
永田宏和(NPO 法人プラスアーツ理事長)
- 参加者:16 名
- 協力:ネット TAM

【フィールド視察】 ※コーディネート事業として広島県・海の道プロジェクトチームと連携

瀬戸内アートクルーズ～道後温泉から島々を巡り、尾道、百島、鞆の浦へ～

瀬戸内のアート資産をクルーズでめぐり、一泊二日のフィールド視察。道後温泉から始まり、瀬戸内海の個性豊かな島々を訪れ、それぞれの歴史や伝統を知り、豊かな自然資源を満喫。地域資源をアートで活用する数々の事例、地元企業のメセナ活動、まちで展開されるアートプロジェクトなどを視察した。

- 日時:2015 年 10 月 22 日(木)~23 日(金)
- 行程:10 月 22 日=道後温泉「蜷川実花×道後温泉 道後アート 2015」~大崎下島・御手洗町並み保存地区、劇場「乙女座」、御茶屋「若胡子屋」~大久野島・毒ガス貯蔵庫跡、砲台跡など旧軍施設~なかつた美術館・レストラン「ロセアン」
10 月 23 日=県営倉庫の活用例「Onomichi U2」と「上屋倉庫 3 号」~ARTBASE 百島(柳幸典、ス・ドホ、西野達の作品プラン等)、日章館~鞆の津ミュージアム、福禅寺、鞆の浦散策
- 参加者:10 月 22 日=34 名、10 月 23 日=28 名



- 加藤専務理事の主催による「タネ Cafe」を4回開催(4/21、6/24、9/10、11/18)。「21世紀の創造経済」「産業遺産と創造都市」など、全国のアートプロジェクトや文化に関わる幅広いトピックスを中心に語り合うゆるやかな会合で、毎回、会員はじめ文化関係者が10名前後集い、情報交換と交流の場となった。
- 横浜のアートNPOの主催による「BankART School」で加藤専務理事が企業メセナについての講義「創造列島 Creative Archipelago」を全8回実施(4/22～6/10、毎週水曜 19:30～21:30)、企業や文化行政担当者など関心の高い聴講者が集った。本講義の内容を反映し、25周年記念出版を制作している。

2) メセナネットワーク

■会員相互の交流と、メセナの輪を広げる機会を設ける

- 年始の賀詞交歓会をメセナフォーラムとあわせて開催。竹中工務店に会場を提供いただき、本社ビルの創意工夫に満ちた設計の各所を案内していただいた後、「メセナアワード 2014」でメセナ大賞を受賞したギャラリーエークワッドの展覧会も観覧した。
- 会員ネットワークグループ幹事の企画で、「新入会員ファーストミーティング」を行い(6/4)、4社6名の新会員が参加した。各社のメセナ活動についてプレゼンテーションを行う他、協議会の事業概要等を案内し、会員ネットワークグループのメンバーと交流した。
- 会員ネットワークグループ有志により発足した「メセナ美術部」では、2回の視察を実施(7/24、9/4)。会員のみならず、美術館やギャラリーなどの施設を運営する企業のメセナ担当者を集っており、幅広いネットワークを形成するとともに、会員以外の企業に協議会を周知する機会となっている。

【賀詞交歓会】

1月21日(水) 14:30～17:30 竹中工務店	◎メセナフォーラム「社会創造におけるアートNPOの役割とは」 14:00～15:15 ◎賀詞交歓会 16:00～17:30 ・参加者:98名(会員70名、一般13名、招待15名)
----------------------------------	---

【新入会員ファーストミーティング】 ※会員ネットワークグループ主催

6月4日(木) 10:00～13:00 協議会事務所	・参加者18名、うち新入会員以下4社・6名: 松田順子(IHI エスキューブ)、江本真一・原田聖子(グリー)、 細田暁貴・田中優紀子(GMO インターネット)、伊禮真(琉球銀行)
----------------------------------	---

【メセナ美術部】 ※会員ネットワークグループ主催

7月24日(金) 9:30～16:00	第5回メセナ美術部@クレマチスの丘 ・レクチャー:ヴァンジ彫刻美術館キュレーター森啓輔、 IZU PHOTO MUSEUM キュレーター小原真史 ・参加者:11名(会員7名、一般2名、事務局2名)
9月4日(金) 17:00～18:30	第6回メセナ美術部@東京オペラシティギャラリー 「鈴木理策写真展 意識の流れ」ギャラリーツアー ・案内:鈴木理策(写真家) ・参加者:29名

3) 地域メセナ交流・推進

■「Creative Archipelago(創造列島)」の提案で地域の文化振興に寄与

- 2020年を機とした「Creative Archipelago(創造列島)」を提案し、文化による社会創造の観点から、地域資源を活用した文化振興策と企業メセナの推進を打ち出した。これに伴い、各地の企

業や文化団体等から招聘される機会も増え、情報提供と交流が増大した。

- 地場企業や自治体からの問合せや相談、情報提供依頼が格段に増え、加藤専務理事はじめ事務局スタッフが積極的に協力している。また自治体の文化政策に関する委員会等への参加も引き続き行っており、民間の文化振興の観点から意見を述べた(沖縄県、鳥取県、広島県、京都府、静岡県、横浜市、新潟市、埼玉県、さいたま市ほか)。
- 協議会の関西拠点である関西・大阪 21 世紀協会にて、メセナ関連の相談を受ける「メセナよろず相談日」を実施(2/27、7/10、9/25・26)。京都、大阪、岡山に拠点をもち企業および文化団体からの相談を受けるほか、活動の現場を視察した。
- 25 周年記念事業である国際会議を、会員企業の千島土地が運営するクリエイティブセンター大阪で行うほか、コーディネート事業と関連したフィールド視察「瀬戸内アートクルーズ」など、文化による地域振興やメセナの取り組みを紹介し、地域文化の豊かさを実体験する機会を設けた。
- 「メセナアワード」受賞活動や「GBFund」助成決定のプレスリリース等の発行に際し、該当する地域のメディアに働きかけた。また「メセナライター」制度の導入にあたり、福岡、名古屋、新潟在住のライターを採択し、各地の企業メセナ活動についてのレポートをしてもらうなど、積極的に情報発信を行った。

4) 国際交流

■国際会議、メセナフォーラム等を通じたネットワーク強化

- 協議会設立 25 周年記念事業として、大阪での国際会議を実施。コーディネート事業として、2013～2014 年に東京都歴史文化財団から受託した国際会議等の経験とネットワークを活かし、東京セッションに続く当会議を実現することができた。
- 大阪会議では、フランス、マレーシア、チリ、オーストラリアから文化機関の専門家や研究者を招いたほか、国際的に活躍するアーティストの蔡國強氏を迎えることができた。本会議を機に、あらためて海外のメセナ組織との連絡、協力がはかられ、以降も継続的に情報交換を行っている。
- 同会議を契機として、東南アジア各都市でのミーティングの継続について、国際交流基金アジアセンターから 3 年間にわたる会議と視察の企画が採択され、2016 年からの実施に向けて準備を進めている。
- メセナフォーラムにおいては、オランダ・アムステルダム副市長のカイサ・オルグレン氏、ゴッホ美術館館長のアクセル・リュガー氏をはじめとする訪日団との文化政策意見交換会を実施。ミニ・メセナフォーラムではフランス・ナント市よりリュ・ユニックディレクターのパトリック・ギゲール氏を迎えた。さらに、トヨタ財団からの依頼により、韓国より社会貢献活動の視察訪日団を受け入れた。

■海外のメセナ機関・企業を調査、国際的な情報発信にも努める

- 調査研究事業において、海外のメセナ機関等からの情報収集を行うほか、フランス、ドイツへの視察を実施。メセナの国際比較につながる情報収集に努めるとともに、相互に顔の見える関係性の構築をはかっている。
- 英語サイトのリニューアルをはじめ、英語によるプレスリリース、Facebook 配信などの情報発信に努め、国際会議や調査事業等で海外文化機関に働きかけた結果、国際交流が著しく活性化した。フランスのメセナ組織 ADMICAL ウェブサイトでプレスリリースの内容が掲載されたり、スカイプなどで、フィランソロピーに関する国際的なネットワークの会議 CECP にも参加した。

1-6. コーディネート、協力

■芸術文化振興の専門機関として幅広い相談・協力に対応

- 企業メセナの専門機関として、協議会に蓄積された情報や知見を活かし、芸術文化振興に関わる幅広い相談に応じる他、具体的なメセナプログラムの開発や協力、コーディネート事業を展開。企業間および企業と他のセクターをつなぐ役割を担っている。
- 調査を中心とした新規のコーディネート事業を実施した。特に規模の大きな「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」(広島県)を受託した他、オリンピックに関連して、東京都に都内の企業メセナの実態についてのデータを提供した。また会員企業からも、新たなメセナプログラムの策定に向けたニーズ調査や、現在行っているメセナ活動に対する評価の依頼があり、コンサルティングへと発展している。
- 例年継続しているコーディネート事業では、「ネットTAM」のコンテンツ・リニューアル(トヨタ)や「すみだ川アートプロジェクト」のアンサンブルズ・パレード(アサヒ)などで、プログラム充実をはかる展開があり、密なコミュニケーションにより運営を進めた。トリトン・アーツ・ネットワーク(第一生命)や横浜市からの依頼により、評価・広報委員等としても事務局スタッフが協力している。
- 「2021 Arts Fund」を設けたことから、同ファンドを活かしたメセナプログラムを企業に提案するほか、さまざまな文化事業の主催者からの相談を受けている。「2021 Arts Fund」の枠組みで寄付金授受を実現したケースもあり、新たなメセナプログラムでの活用も検討を進めている。
- 幅広いセクターからの相談や協力依頼に積極的に対応している。文化団体やアート NPO からは事業推進に関する相談、教育機関からはメセナについての講演依頼、行政からは文化政策に対する意見や文化施策の評価、文化事業の受託の選考に関する依頼が多い。
- 2020 年に向けた文化プロジェクトについて、企業メセナおよび文化による社会創造についての相談やヒアリングが激増している。また会員企業からの提案により、会員有志からなる研究会を発足させ、事務局の一端を担っている。

【主なコーディネート事業】

トヨタ自動車	「トヨタ・アートマネジメント」プログラムの運営
<p>アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)の企画・運営、月例更新(コンテンツ制作)、SNS による広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンテンツ内容のリニューアルを実施。ユニークユーザー、モバイル割合が前年度と比べて増加。 • コンテンツ寄稿者を招いたフォーラムの開催が実現し、協議会と連動させた催しを展開。 • 更新内容:メルマガ配信(毎月1日・15日)、リレーコラム(毎月1日公開)、取材、新コンテンツ立ち上げ • 訪問数:139,647 • ユニークユーザー数:59,401 • ページビュー:443,321 	
アサヒグループ芸術文化財団	すみだ川アートプロジェクト 2015「江戸を遊ぶ—江戸のもくろみ」
<p>重要な地域資源である隅田川に着目し、市民とアーティストが皆でつくり、皆で楽しむプロジェクト。夏のメイン期間をはじめ年間を通じて、多彩な催しを展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 主催:すみだ川アートプロジェクト実行委員会、アサヒグループ芸術文化財団 • 共催:アサヒ・アートスクエア、墨田区、AAF ネットワーク実行委員会 • 特別協賛:アサヒビール • 企画協力:企業メセナ協議会 • 協力:アートNPOリンク、トッピングイーストほくさい音楽博、ものコト市実行委員会 	

◎「Oh! Hanami pARTy」SRAP 式お花見パーティー

- 日時:2015年4月4日(土)18:00~20:30
- 会場:アサヒ・アートスクエア
- ゲスト:五街道雲助(落語家)、
EAT & ART TARO(アーティスト)
- 参加者:57名



◎「江戸を遊ぶ—江戸のもくろみ」

- 会期:2015年6月13日(土)~7月31日(金)
- 会場:アサヒ・アートスクエア、
アサヒグループ本社ロビー&周辺広場、牛嶋神社他
- 来場者:5,172名、アンサンブルズ・パレード:約2,000名

◎「アンサンブルズ餅つき」SRAP 式正月の準備「餅寄合」

- 日時:2015年12月24日(水)17:00開場、19:00~21:00
- 会場:アサヒ・アートスクエア
- ゲスト:坂田明(サクソ奏者)、山田順子(時代考証家)
- 参加者:約80名

広島県 商工部・海の道プロジェクトチーム(瀬戸内ブランド推進機構事務局)

瀬戸内アート資産等調査・整理等事業

瀬戸内におけるアート資産についての悉皆調査。文献調査およびヒアリング等により、文化財や自然資源を含むアート資産の棚卸しを行うほか、2回の検討会を行い、アート資産をめぐるクルーズにより、瀬戸内におけるメセナの可能性を検討する機会となった。

【調査の目的】

瀬戸内のアート資産や各種取り組み等の促進、瀬戸内のアート資産等の効果的な情報発信を図るため、瀬戸内エリアに、どのようなアート資産等があり、どのような取り組み等がなされているのかを明らかにし、整理する。

【調査対象】

瀬戸内7県(兵庫、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛)のアート資産
…文化施設、文化財、祭・芸能、アートプロジェクトおよび拠点、企業・企業財団、産業遺産、自然資源

【調査方法】

- ① 文献・インターネット調査によるアート資産の抽出:7,037件
- ② ヒアリング(瀬戸内で拠点となるスポットやアート NPO 等組織、地域・歴史資源の活用およびコンテンツ発信に詳しい専門家等):23件

◎検討会の実施

本調査の目的にかなうアート資産整理の観点、対象範囲等を検討し、調査以降の継続的な事業のあり方、施策等について意見交換を行う。

• メンバー:

加藤種男 公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
金代健次郎 公益財団法人福武財団 事務局長
田野智子 NPO 法人ハートアートリンク 代表理事
徳永高志 NPO 法人クオリティ アンド コミュニケーション オブ アーツ 代表

• 開催日および会場:

第1回検討会 2015年8月5日(水) 14:00~16:00
於:企業メセナ協議会 ミーティングルーム
第2回検討会 2015年10月21日(水) 13:40~15:40
於:広島県庁東館8階会議室

◎フィールド視察の実施

瀬戸内アートクルーズ~道後温泉から島々を巡り、尾道、百島、鞆の浦へ~

- 日時:2015年10月22日(木)~23日(金)

*内容の詳細はp20に記載

瀬戸内アートツーリズム資産整理・評価業務

【調査目的】

先行して実施した「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」の成果を踏まえ、観光の観点から、活用可能な有望資産を整理・評価するとともに、「瀬戸内アートツーリズム」戦略の策定に向けて必要な分析を実施する。

【評価手法】

「瀬戸内アート資産等調査・整理等事業」で調査したアート資産について、瀬戸内海に臨むエリアを優先的に抽出し、アートツーリズムに影響を及ぼすと考えられる評価指標を設けて評価を行う。

【主なコンサルティング】

依頼元	内容
花王株式会社	新しい文化支援の考え方～日本の「暮らしの文化」を創造的な観点から支援 ※支援対象についての調査と分析
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	文化・芸術に関する2020年に向けた計画策定 ※現状分析とご提案

その他の相談、ヒアリング等

- …朝日新聞、クロスカンパニー、住友不動産、竹中工務店、寺田倉庫、テルモ、電通、東京国際フォーラム、凸版印刷、トヨタ財団、日本生命、パソナ、福屋、リンナイ、大原美術館、東京・春・音楽祭、三菱総研、観光庁、内閣官房2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、埼玉県、さいたま市、墨田区、キョング文化財団 他

【協力】

■委員・役員

依頼元	内容(期間・開催日)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	ひまわりホール活性化委員会委員 (2014年8月1日～2015年3月31日)
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク	トリトン・アーツ・ネットワーク第5期評価委員会委員 (2014年4月～2016年3月)
フェスティバル/トーキョー 実行委員会	「フェスティバル/トーキョー」実行委員 (2014年5月1日～2015年3月31日)
特定非営利活動法人 アートNPOリンク	理事、監事
特定非営利活動法人 Explanet 株式会社	理事 (2015年3月3日～2017年3月)
株式会社 ニッセイ基礎研究所	関係機関横断的な文化政策についての意見交換会 (2015年3月30日)
公益財団法人 地域創造基金さなぶり	「アーツエイド東北・芸術文化支援事業」審査員 (2015年3月24日)
国際交流基金	2015年度国際交流基金地球市民賞選考委員 (2015年8月27日～2016年3月31日)
文化庁	「国民文化祭に関する調査研究」業務先選定に係る技術審査専門員 (2015年2月1日～3月31日)
文化庁	「平成28年度国民文化祭分野別フェスティバル(文化庁公募分)実施団体企画案選定委員会」委員 (2015年7月2日)
文化庁	「優れた現代美術の海外発信促進事業(国際発信力のある国際企画展)」協力者会議委員(2014年5月19日～2016年3月31日)
文化庁	「文化芸術グローバル化推進事業」事業審査委員 (2015年1月8日～2015年3月31日)
文化庁	「文化芸術の海外発信拠点形成事業」協力者会議委員【採択事業に係る評価】(2015年7月23日～2016年3月31日)
文化庁	「文化芸術の海外発信拠点形成事業」協力者会議委員【審査】 (2015年8月5日～2016年3月31日)

文化芸術による復興推進 コンソーシアム	文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員 (2014年6月1日～2016年5月31日)
東京都生活文化局	東京都江戸東京博物館外5施設指定管理者評価委員会委員 (2015年6月30日～2016年)
東京都生活文化局	東京都ボランティア活動推進協議会構成員 (2015年8月27日～)
京都文化ベンチャーコンペ ティション実行委員会	「第8回京都文化ベンチャーコンペティション」審査委員 (2014年6月9日～)
静岡県	静岡県文化制作審議会委員 (2015年3月13日～2017年3月12日)
鳥取教育委員会	鳥取県教育審議会委員 (2014年10月1日～2016年9月30日)
横浜市広報企画審議会	横浜市広報企画審議会委員 (2015年7月1日～2016年6月30日)
墨田区指定管理者選定 委員会	墨田区指定管理者選定委員会委員 (2015年10月15日～2016年3月31日)

■講義・出演

依頼元	内容(期間・開催日)
阿佐ヶ谷アートストリート	「Republic 東京地域アートサミット Go to 2020—東京オリンピック文化村構想を企む」(2015年3月28日)
公立文化施設協会九州支部	研修会「企業メセナの動向」 (2015年4月23日、24日)
京都造形芸術大学	舞台芸術研究センター アートマネジメント講座 (2015年5月2日)
慶應義塾大学大学院 美学・美術史学専攻	社会人向けアートマネジメントスクール (2015年6月15日)
一般財団法人地域創造	ステージラボ札幌セッション (2015年7月8日～9日)
特定非営利活動法人 アートNPOリンク	NPN(米国)との協働事業「震災復興とアートNPO ネットワーク」 (2015年2月11日)
日本大学 芸術学部演劇学科	芸術総合講座「メセナの現状と企業へのアプローチ」 (2015年10月9日)

■視察

依頼元	内容(期間・開催日)
茨城県政策審議室	平成27年度政策課題研究「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの本県展開について」(2015年11月12日)
公益財団法人トヨタ財団	韓国訪日団「企業・NPO・政府 社会貢献活動 パートナーシップ強化に向けての日本研修」(2015年11月26日)

■後援

依頼元	内容(期間・開催日)
特定非営利活動法人 世界劇場会議名古屋	世界劇場会議名古屋フォーラム2015 (2015年5月29日)
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会	ピティナ・学校クラスコンサート (2014年6月～2015年3月)
企業文化交流委員会	第21回 秘蔵の名品 アートコレクション展 美の宴～琳派から栖鳳、大観、松園まで(2015年8月3日～20日)
バリ金谷インターナショナル アートウィーク実行委員会	バリ金谷インターナショナルアートウィーク実行委員会 (2015年10月2日～7日)

公 2: 芸術・文化活動等への寄付を促す助成に関する事業

2-1. 「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」(2021 Arts Fund)

■ 未来への文化投資を促す目的ファンドとして本格運用

- 文化による社会創造を寄付と助成制度の面からもさらに充実すべく、前年度に設立した「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」(通称:2021 Arts Fund)の本格的な運用を開始、期待以上の実績を上げた。
- 当ファンドの重点対象は、①地域文化振興および芸術・文化による地域創造、②芸術・文化を通じた国際交流および日本文化の国際発信、③芸術・文化およびこれを通じた社会創造を担う人材育成、④その他、芸術・文化振興に資する活動とし、目的を特化した寄付を受け入れている。
- 特に、寄付者の意志に応じた助成プログラムのコーディネートを複数件実現できたことの意義は大きく、今後の展開に弾みがついた。
- 名称の「2021 芸術・文化による社会創造ファンド」は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに因み、日本各地の多様な文化を発信し、2020 年以降の未来の文化の創造につながるような活動を支援するという趣旨による。今後、制度の趣旨をさらに周知して、事業拡大に努めたい。
- 当ファンドの運営に際しては、寄付金の 10%を上限とする事務局経費を申し受けており、本制度の公益性を保障する活動に役立てていく。

【寄付総額・助成状況】 (2015/12/31 現在)

[寄付総額]	3 億 2,591 万 6,932 円
[助成総額]	3 億 2,459 万 8,903 円
[助成活動件数]	28 件



芸術・文化による社会創造ファンド
企業メセナ協議会

■ 寄付専用サイト「かるふあん！」の開設

- 「2021 Arts Fund」を中心に幅広い寄付を呼びかけるべく、芸術・文化の寄付サイト「かるふあん！(Culture Funding)」を 2015 年 4 月に開設。具体的な寄付活用例を示し、オンラインでの申請・寄付システムと連動させ、事務局に気軽に相談いただけるよう発信力を高めた。当サイトを見て相談してくる寄付者もあり、着実に効果が現れている。



2-2. 震災復興支援事業「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」(GBFund)

■GBFund フォーラムの開催と寄付者の声を活かす広報

- 2015年度は2回のGBFund選考会を行い、26件を助成活動として採択した。前年の第11回選考会より申請件数に減少が見られたが、その傾向が続いており、第13回選考会での申請件数は20件となった。
- GBFundへの関心を喚起すべく、ファンド設立当初よりチャリティCDの売上を継続寄付いただいているジャズピアニストの小曾根真氏にインタビュー。「文化は日常、文化は栄養素」と題した応援メッセージをプレスリリース(7/7発行)等に掲載した。
- 採択活動の実施にあわせて岩手県大船渡でGBFundフォーラムを開催(10/17)、多くの関係者から謝意が寄せられ、GBFund継続への期待の高さを実感した。東京では「防災とアート～防災の観点から災害復興におけるアートの可能性を探る」としてミニ・メセナフォーラムを行い(9/17)、自然災害に対し従来とは異なる課題解決の方法を発想することの重要性が指摘された。

【GBFund 選考委員】

片山正夫	(セゾン文化財団常務理事)
加藤種男	(企業メセナ協議会専務理事)
俵木 悟	(成城大学文芸学部文化史学科准教授)
船曳建夫	(文化人類学者)
吉本光宏	(ニッセイ基礎研究所研究理事)



【寄付総額・助成状況】

[ファンド目標額]	200,000,000 円
[寄付総額]	1 億 4,989 万 6,821 円 (2015/12/31 現在の着金済)
[助成総額]	1 億 4,715 万 9,924 円 (2015/12/31 現在、寄付先指定寄付を含む)
[助成活動件数]	250 件

【2015年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会開催日	申請数	採択(助成)数	助成総額
第12回選考(2015/5/18)	72 件	15 件	495 万円
第13回選考(2015/11/24)	20 件	11 件	350 万円
合計	92 件	26 件	845 万円

※2014年度(第10回・第11回):申請数123件、採択数28件、助成総額964万円

■GBFundの成果について検証作業に着手

- GBFundは設立時より5年間を目処に運営を想定しており、2016年12月までを第一期としていることから、これまで当ファンドが震災復興に果たした役割や成果を検証し、今後の事業の方向性を検討すべく、外部メンバーからなる検証チームを発足させた。
- 検証チームには、研究者や伝統芸能に詳しい専門家を迎えるとともに、公募によりメンバーを募集し、全5名に委嘱した。定期的にミーティングを行う中で、助成団体より提出された活動報告書を読み込み、あらためて助成団体に対するアンケートを実施するとともに、現地でのヒアリングを行い、検証作業を進めている。

- 本検証作業の成果は、2016年2月の通常理事会にて報告するほか、一般公開の報告会を開催し、GBFundの5年間の成果を発表する予定である。「GBFundがあったからこそ活動が実施できた」など、当ファンドの有効性を示す意見が多い一方、コミュニティの分断や後継者不足により、今後の活動継続を危ぶむ団体もあり、支援の必要性を訴える声が寄せられている。

【GBFund 検証チーム】

- リーダー 大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所 社会研究部芸術文化プロジェクト室准主任研究員)
 メンバー 小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会 事務局次長)
 佐藤友美(トヨタ自動車株式会社 総合企画部)、白木里恵子(早稲田大学大学院研究員)、野崎美樹(岡本太郎美術館 教育普及担当)

2-3. 助成認定制度

■制度改定が浸透、オンラインシステムの整備に注力

- 「2021 Arts Fund」の設立に伴い、2014年末に大きく改定した助成事業では、従来の「助成認定制度」利用者である寄付者ならびに文化団体等への説明に注力した。規模の大きな活動を継続する任意団体には公益法人化・認定 NPO 化を勧め、任意団体などの臨時組織で事業費および寄付金額の大きな活動に対しては、「2021 Arts Fund」の対象とした。
- 2015年度は4回の審査委員会を実施。「2021 Arts Fund」の利用を推奨したこともあり、申請件数は前年度より減少した。しかし当制度は1994年の運用開始から、累計125億円を超える寄付があり、文化団体、寄付者ともに活用されてきた。今後も、臨時の活動や小規模な活動には必要な仕組みであり、本制度は継続運用していく。
- 前年度より、申請と寄付金授受に関する作業のオンライン化を進めている。本助成制度の利用者は「メセナフレンズ」としてWEB登録したうえで、活動申請、寄付申込みができる仕組みを開発しており、現在の登録数は2,506件となっている。制度の運用を行いつつシステム設計を進めているため工数がかかっているが、よりよいシステムの完成を目指して作業を進めているところである。



企業メセナ協議会
助成認定活動

【2015年度の認定件数】

	実施日	認定件数	申請件数
第1回審査委員会	2月24日	22件	26件
第2回審査委員会	6月26日	35件	44件
第3回審査委員会	9月10日	18件	23件
第4回審査委員会	12月17日	8件	14件
合計		83件	107件

【寄付件数と寄付金額】

年度	寄付件数	寄付金額	平均寄付金額/件
2015年度	544件	2億744万円	38.1万円
2014年度	1,060件	3億6,755万円	34.6万円

以上